



**解説シリーズ「野鳥」(新版)
を刊行しました**

博物館では、釧路のあれこれを紹介する「博物館解説シリーズ」を発行しています。2015年度は、在庫が無くなっていた野鳥分野について新版を刊行しました。

1989年発行の「釧路の野鳥」は、釧路地方で見られる鳥を天然記念物・生息地・分類毎に分けて生息状況や生態を紹介するものでした。良くまとまっているため、これに準じて刊行しても良かったのですが、当時と比べると釧路地方も含めた北海

道の野鳥に関する書籍は増えてきています。そこで、既存の書籍の中でも情報の薄い部分かつ釧路らしいものを制作したいと思いました。

書店を巡りながらどう工夫すればよいかと思案している中、野鳥の探鳥地に関する情報はそれほど多く無いことに気がきました。バードウォッチング熟練者なら、探鳥地で野鳥を見つけることは難しくないでしょう。しかし、初心者は野鳥を見つける前に探鳥地を探す所から始まります。旧版でも探鳥地紹介はされていましたが、今回はそこに力を入れて(もちろん、釧路地方の野鳥情報も盛り込んでありますが)、初心者及び釧路へ初めてきた方をサポートできるような冊子を目指しました。

私は釧路へ住み始めてまだ日が浅

いため、経験豊富とは言えず不安ではありましたが、ベテランバードウォッチャーの皆さんに情報を伺い、まとめることができました。冊子の構成、地図及び文章作成、撮影した写真の選定と不足する写真の借用手続きなど、やればやるだけ仕事があり、また地図作成は最も時間がかかりましたが良い経験となりました。ページの都合上、釧路地方の探鳥地のごく一部しか紹介できず心苦しい部分もあり、また「この場所にはこの鳥が入っていないのでは?」などのご意見もあるかと思います。ニーズにどれだけ応えられた不安もありますが、この冊子が野鳥に関心を持つ皆様に、少しでもお役に立てれば幸いです。

(貞國利夫)

トピック



釧路市知人浜にシャチ幼体が漂着

2016年2月20日午後、釧路市内在住の情野裕良氏から「イルカらしき物体が知人(しりと)の浜にある」との通報が当館にありました。同日筆者が現地を確認し、死んでいるシャチ(幼体)ではないかと思われたため、当館では日頃より研究交流の

ある、「Orca.orgさかまた組」(釧路地域も含めた鯨類の調査研究団体)の代表である笹森琴絵氏へ、さらに同氏を通じて北海道大学水産学部准教授で「ストランディングネットワーク北海道」(道内における鯨類の座礁・漂着・混獲[ストランディング]調査団体)代表でもある松石 隆氏へ情報を伝えたところ、

「間違いなくシャチの幼体であり、漂着例は極めて少なく大変貴重である」とのことから、22日朝、博物館と松石研究室により回収作業を行い、北海道大学水産学部(函館市)へ移送しました。

解剖所見は以下の通りです。

- ・体長219.8cm、体重148.7kg オス個体
- ・産まれた後すぐ、哺乳開始前に死亡したものと推定される。
- ・目視では臓器に異常は認められない
- ・この時期に釧路近海で出産していることや、出生体長が明らかになったことは学術的に貴重

今後このシャチのサンプルは、松石研究室を通じ帯広畜産大学、国立科学博物館はじめ、日本全国の鯨類研究機関に送付され、今後、学術研究に供されます。

この機会が、多くの方に釧路の海について考えていただくきっかけになればと思います。

(貞國利夫)

